

きれいって、 気持ちいい!!

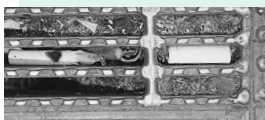
参加者の思い、伝えれ!

「小江戸川越クリーンウォーク」

表通り
裏通り



大人が捨てたゴミ、拾っているのは子どもです



側溝の中には、
吸い殻が入っていました。
火が付いたまま
捨てられた物もあるようです(左)



たくさんの参加者に、地元
サンロード商店街振興組合
の金子憲二理事長も感謝



さまざまな年代が
いっしょに活動しました



受け付けを済ませ、
軍手をはめて
いざ! ゴミ拾い!!



参加した皆さんの姿を取材して、
ゴミのポイ捨ては絶対にやめようと
決意を新たにしました(上・右)



抽せん会が終わったあと、新富町
商店街振興組合の飯田政次理事長
がお礼のことは述べました



この日、
拾ったゴミ

三月十日に開催された、川越商業経営研究会主催の「小江戸川越クリーンウォーク」。クレアモールを三つの区間に分け、百三十一人の皆さんがそれぞれ一時間ほど、清掃を行いました。

境を整えることが肝心だと考え、実施しました。行政主体でなく、私たちがまちを守るという意識を持っていただければ、うれしいですね。

参加者には、家族連れや若い方の姿が多く見られました。須ヶ間淳くん(11歳・新宿町二丁目)・博くん(8歳)兄弟は、父母といっしょに参加しました。総合学習の時間に、クレアモールのごみ調査をしたという淳くんは、「学校で案内をもらって、

参加しました。今まで、道路のごみ拾いをしたことはありませんでした。実際にやってみると、目立たない所に、ごみがありました。特に吸い殻が多かったです。ガムも多かったですね。」「思ったよりも道にはごみがあつて、拾うのがたいへんだったけれど、おもしろかったです。大人になっても、道にごみは捨てません」と、博くん。

清掃の終了後に、抽せん会が行われました。当せん者は三人。その一人、大野静香さん(18歳・谷中)は、「アルバイト先の知り合いに誘われ、参加しました。きっかけがあれば、私ぐらいの年齢でもボランティアをやってみたいと思っています方は多いのではないのでしょうか。ごみを拾っていて、つい一生懸命になると、気持ちいいですね。」みんなの気持ちが一つになれば、川越はより美しいまちに変わっていきます。



打ち合いが
できるよう
になりました
(上)
講師のあとに
付いて、
移動の練習
(左)

ボールが打てたときの、そう快感は格別

障害者と健常者がスポーツを通じて交流する、市社会福祉協議会主催の障害者スポーツ普及事業。ことしは3月4日に開催し、川越水上公園テニスコートを会場に、車いすテニスを体験しました。障害者7人と健常者33人の皆さんが参加しました。

車いすテニスのルールが通常のテニスと違うのは、車いすのプレーヤーは3回バウンドするまでに返球すればいいことだけ。講師のプレーを見ていると簡単そうに見えるものの、実際は片手にラケットを持つため、車いすを移動させるのが難しく、思うように動きません。それでも中には、ダブルスの試合ができるほどに上達した方も……。『テニスだけでも体力を使うのに、車いすでテニスをするのは、ほんとうにたいへんでした。腕が疲れて、筋肉痛になりそうです。普通にこなしている講師の皆さんは、すごいですね。』と参加した野原孝史さん(29歳・仲町)。



「車いすテニスは、国際テニス連盟の世界ランキングもあります。今後も普及に努めます」と、講師代表の県車いすテニス協会・本間正広会長(44歳・手前)

ことしも「小江戸川越春まつり」始まる

3月25日、「小江戸川越春まつり」のオープニングイベントが、一番街などで行われました。開会式のあと、川越藩火縄銃鉄砲隊の演武やマーチングバンドなどが、訪れた皆さんの目を楽しませました。ことしは、川越城築城550年にちなんだゲームが子どもたちに人気。この祭りは、4月29日(祝)に農業ふれあいセンター周辺で開催される「川越れんげまつり2007」など、5月8日(火)の「呑龍デー」(蓮馨寺)まで続きます。



雨模様の天気にも、笑顔の演技を見せる
星野高校吹奏楽部の皆さん



左上から、三浦京子さん、富田路子さん、
池田スズ子さん、左下、花井泰子さん、
座長の熊野圭子さん、新井茂子さん

現在、人形たちの一部は、読み聞かせを行っているグループで使われています。今後は、皆さんの役に立つような、新たな活動を探していきたいと考えています。

「人形劇どんぐり座」の皆さん
人形劇どんぐり座は、団員の減少と高齢化のため、三十年間の活動に終止符を打ち、ことし三月で解散しました。
昭和五十年、高階小学校の家庭教育学級で行われた人形劇講座の受講生が集まって結成。当時、市内には市民主体の人形劇団はなく、初めての劇団でした。練習を重ね一年後、老人ホームで「大きなかぶ」を初公演し、その後は、公民館や保育園などで二百五十回以上の公演を行いました。
週一回団員が集まり、人形・小物などの製作や練習、脚本づくりをしました。今までに作った人形は百体以上、二十三の脚本があります。人形劇を見る皆さんに、かつての様子を知ってほしくて、地域の昔話を題材に多くの脚本を作りました。公演に力を入れていた「次兵衛さまと神の申し子」は、高階地区に伝わる話を題材にした作品です。

かわごえ
越
び
と
34